



出前講座報告書



福島県立医科大学

性差医療センター
災害医療総合学習センター
医学部公衆衛生学講座

平成27年9月3日 いわき合同庁舎内会議室

テーマ

「福島における放射線リスク」



保健師は、一次・二次予防を担う一方で、原子力災害後の避難生活や放射線健康影響に関する住民の不安への対応をも求められているのが現状です。

今回の講座では、住民と共にいかに考えるかを主題に、講義と討論を通して、放射線被ばくによるリスクを参加者と考え、共有しました。

講義の様子

住民の持つ不安に沿った内容で、福島県内のデータを提示しながら、外部被ばくや内部被ばくによる健康影響、食品の放射線量、甲状腺検診等の現状を捉え、放射線リスクを学ぶ講義でした。



講師紹介



福島県立医科大学
災害医療総合学習センター
副センター長 熊谷敦史

平成10年長崎大学医学部医学科卒業後、同第一外科入局。平成18年長崎大学大学院医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻博士課程修了後、WHOジュネーブ本部インターンを経て、長崎大学病院永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター助教。原爆被爆者の診療や研究に携わる。東日本大震災直後に福島へ派遣されて以降、県内自治体の放射線健康アドバイザーとして緊急被ばく医療支援、放射線健康リスクに関する住民対話等に従事。平成24年4月より現職として医療者育成や地域支援にあたる。専門領域は被ばく医療学、甲状腺学、一般外科。趣味：温泉つきの山歩き、マラソンなど。



質疑応答

研修会開始前に、現時点での放射線に関する疑問点や不安について、各自に挙げてもらいました。講義を受けた後に、事前に書いた内容が解決したかを各自で判断してもらい、または更なる疑問点などを書き出しました。その内容に関して講師より回答を行いました。



アンケート集計結果

参加者9名、アンケート回収率100%

評価項目	「(大いに)そう思う」*1
研修の配布資料は適切だった	100%
研修の時間配分は適切だった	100%
研修の進行は適切だった	100%
講義について理解できた	100%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	100%
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	89%*2

*1 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

*2 「3. どちらでもない」と1名回答

復習ポイント

アンケートの感想に、「住民と一緒に考えようという姿勢で取り組んでいこうと思いました。」とありました。そのためには自分の知識や認識を知ることが重要です。是非、配布した資料を活用し、他の誰かにお話する機会を持っていただけたらと思います。

POINT!

三時間の長い研修ではありましたが、皆様とても熱心に参加してくださり、放射線の知識向上、住民対応への不安軽減が期待される場所です。講義前後の疑問点を通して、各々が自身の知りたところを意識することで、学習効果にも繋がったと思います。放射線災害の問題は、まだ終わりが見えないので、この取り組みを今後も継続してゆきたいと思えます。

編集後記



出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。